

ロシア語の原因を表す前置詞について I

(意味特徴に基づく分析)

青 木 正 博

要 旨

従来のロシア語の原因を表す前置詞の研究が前置詞ごとにその前置詞に特有な特徴を分析しているのに対し、本稿では3つの意味特徴を使ってロシア語の原因を表す前置詞 *из, с, по, от, из-за, благодаря* を分析し、これらの前置詞を意味特徴の観点から組織的に特徴づけた。「前置詞が支配する語の意味」という意味特徴の観点からは、6つの前置詞は、すべての語のグループとは使われていない前置詞 *из, с, по* とすべての語のグループと使われている前置詞 *от, из-за, благодаря* に分かれた。

「外的原因と内的原因」という意味特徴の観点からは、6つの前置詞は、外的原因を表さない前置詞 *из* とほとんど表さない前置詞 *с*、外的原因と内的原因をほぼ同じ割合で表す前置詞 *по* と *от*、内的原因を表すことが少ない前置詞 *из-за* と *благодаря* という3つのグループに分かれた。

「望ましさ」という意味特徴の観点からは、6つの前置詞は、望ましくない原因を表すことが非常に多い前置詞 *из-за, с, по*、望ましい原因を表すことが多い前置詞 *благодаря*、前置詞 *из-за, с, по* と比べて自由に望ましい原因、中立的原因、望ましくない原因を表す前置詞 *из* と *от* という3つのグループに分かれた。

キーワード：原因、前置詞、ロシア語、意味特徴、望ましさ

0. はじめに

本稿ではロシア語の原因を表す前置詞 *из, с, по, от, из-за, благодаря* を3つの意味特徴を使って分析する¹⁾。意味特徴を使って分析する理由は、従来の原因を表す前置詞の分析が、前置詞ごとに、その前置詞に特有な特徴について成されてきたのに対し、原因を表す前置詞を特徴づけるのに関与的な意味特徴を使って、6つの前置詞を分析することにより、これらの前置詞が意味特徴の観点から組織的に特徴づけられるからである。本稿では以下の意味特徴を扱う。

1. 前置詞が支配する語の意味
2. 外的原因と内的原因
3. 望ましさ

本稿では、筆者が文学作品などから集めた例と本稿で扱っている研究者が挙げている例を分析の対象とし、それらを本稿の資料と呼び、筆者が文学作品などから集めた例だけからなる資料を作品の資料と呼ぶことにする²⁾。

作品の資料における本稿で検討している原因を表す前置詞の例は全体で930例あり、それぞれの前置詞の数は、前置詞 *из* が32例、前置詞 *с* が63例、前置詞 *по* が33例、前置詞 *от* が652例、前置詞 *из-за* が128例、前置詞 *благодаря* が22例である。

1. 「前置詞が支配する語の意味」の観点からの分析

§1. 名詞のグループ分け

本稿の資料では、原因を表す6つの前置詞が支配する語は名詞と代名詞である。この章では、それぞれの前置詞がどのような意味の名詞を支配するかを見ていく。またそれぞれの前置詞が代名詞を支配するかどうか調べる。

本稿では名詞を意味に基づいて、「人間の性質」、「感情」、「肉体的状態」、「心理的状态」、「動作」、「抽象物」、「物」、「人間」の名詞のグループに分けることにする。また、名詞のグループと代名詞をまとめて語のグループと呼び、「人間の性質」、「感情」、「心理的状态」、「肉体的状態」のグループをまとめて「人間の性質、感情、状態」のグループと呼ぶことにする。

名詞のグループに関して具体的に見ていく。*вежливость* "礼儀正しさ", *жадность* "貪欲さ", *нервность* "神経質", *скромность* "謙虚さ", *забывчивость* "忘れっぽいこと", *способность* "能力" のような人間の性格、性質、能力を表す名詞を「人間の性質」を表す名詞, *страх* "恐怖", *горе* "悲しみ", *радость* "喜び", *удивление* "驚き", *стыд* "恥", *жалость* "憐れみ" のような人間が外界の対象に対して抱く気持ちを表す名詞を「感情」を表す名詞, *боль* "痛み", *голод* "飢え", *похмелье* "二日酔い", *старость* "老年", *рост* "背丈", *близорукость* "近視" のような人間の一時的あるいは恒常的な肉体的状態を表す名詞を「肉体的状態」を表す名詞, 人間の状態を表す名詞の中で上の3つの意味グループに入らない名詞は *волнение* "興奮", *напряжение* "緊張", *рассеянность* "ぼんやり", *нетерпение* "焦り", *неосторожность* "油断", *легкомыслие* "軽率" のように心理的状态を表す名詞の例が多いので「心理的状态」を表す名詞と呼ぶ。ここで「人間」は活動体の対象、擬人化された対象を含むものとする。次に *удар* "打撃", *лечение* "治療", *смех* "笑い", *плач* "泣くこと", *ходьба* "歩くこと", *разговор* "会話" のような何らかの動作と関連した名詞を「動作」を表す名詞, 抽象名詞のうち *быстрота* "速さ", *тишина* "静けさ", *время* "時間", *новость* "ニュース", *жизнь* "生活", *запах* "匂い" のような上に挙げた名詞の意味グループに属さない名詞を「抽象物」を表す名詞, *водка* "ウオッカ", *книга* "本", *нога* "足", *грязь* "よごれ", *дым* "煙", *пар* "水蒸気" のような物や物質を表す名詞を「物」を表す名詞, *гость* "客", *мама* "ママ", *Люся* "リューシャ", *Роман* "ロマン", *муха* "ハエ", *воробей* "すずめ" のような活動体を表す名詞を, 人間以外の活動体を表す名詞の例が少ないことから「人間」を表す名詞と呼ぶことにする。

§ 2. 前置詞 из

前置詞 из が支配する名詞の意味に関しては, Золотова (2001: 62) は「語彙的に制限された範囲の抽象名詞」, Грамматика (1960: 140) は「ふつう抽象名詞」と述べている。本稿の資料でも使われていたのは抽象名詞だけであり, 「人間の性質」, 「感情」を表す名詞がとくに多く使われていた。「人間の性質」を表す名詞としては *удальство* "剛胆さ", *верность* "忠誠", *трусость* "臆病", *упрямство* "頑固さ", *покорность* "従順さ", *рабление* "奴隷根性" などが, 「感情」を表す名詞としては *страх* "恐怖", *боязнь* "危惧", *жалость* "憐れみ", *любовь* "愛情", *ревность* "やきもち", *ненависть* "嫌悪" などが挙げられる。

- 1) Он отказался от поездки из упрямота. (Иор.)

"彼は頑固さから旅行を断った"

- 2) [жители]...не сообщались друг с другом из боязни доносов. (Док.)

"[住民は]... 密告を恐れてお互いに付き合わなかった"

3) の例のような「心理的状态」を表す名詞も使われていた。4) の例のような「抽象物」を表す名詞と 5) の例のような代名詞が使われている例は少ない。

- 3) Лестница опустела. Из осторожности подождали еще немного. (Мас.)

"階段は空になった。用心深さからもうしばらく待った"

- 4) Не из силы воли — из страха он держался и держался за работу... (Рак.)

"意志の力からではなく, 恐怖心から彼はひたすら仕事にしがみついていた..."

- 5) Старуха опять осталась одна, и исподволь, из ничего на нее нашла неслышная и легкая печаль... (Рас.)

"老婆は再び一人になった。すると少しずつ, 何とはなしに彼女を聞こえない, 軽い悲しみが襲った..."

§ 3. 前置詞 с

前置詞 с が支配する名詞に関しては, Золотова (2001: 97) は「人の状態 (с радости "喜びから", с горя "悲しみから", с испугу "驚きから", со зла "悪意から", с голоду "飢えから" など) あるいは環境の状態 (с морозу "寒さから", с холоду "寒さから") の意味を持つ語彙的に制限された範囲の名詞」と, Грамматика (1960: 147) は「従属語はここではふつう抽象的意味を持つ名詞である」と書いている。本稿の資料では, 前置詞 с は *страх* "恐怖", *перепуг* "びっくり仰天", *стыд* "恥", *досада* "いまいましさ", *горе* "悲しみ", *радость* "喜び", *злость* "悪意" などの「感情」を表す名詞とよく使われていた。

- 6) С перепугу кто-то прибавил магнитофону звук. (Вам.)

"びっくりして誰かがテープレコーダーのボリュームを上げた"

「肉体的状態」を表す名詞や代名詞も使われている。とくに作品の資料だけで с *похмелья*

"二日酔いで" という例が 10 例あったことは特徴的である。

7) Старик Наум Евстигнейч хворал с похмелья. (Шук.)

"ナウム・エフスチグネイチ爺さんは二日酔いで具合が悪かった"

8) — С чего она помрет-то? (Рас.)

"なぜ彼女が死ぬのですか"

「動作」や「抽象物」を表す名詞は少なかった。

9) Я умираю со смеху.. (Вам.)

"私は笑いすぎて死にそうです ..."

10) С одного хмельного духа закружится голова. (Аст.)

"酔わせる匂いだけでめまいがする"

また、本稿の資料では、「物」を表す名詞の例が 5 例 (вино "ワイン", калач "錠前形の白パン", сыта "蜂蜜の甘露水", квас "クワス", одна рюмка "ワイングラス一杯") あった。城田・八島 (2014: 249) は、このような例を「古めかしいか、俗語」としている。

11) С калача лицо белеет, а с сыты краснеет. (Зол.)

"白パンを食べて顔は白くなり, 蜂蜜の甘露水を飲んで赤くなる"

§ 4. 前置詞 по

前置詞 по が支配する名詞の意味に関しては、Метс (1985: 257) は前置詞 по は「問題の人の性質、状態が話題になっているときに使われる」と述べており、Грамматика (1960: 160) は「従属語としてはふつう抽象的な意味を持つ名詞が現れる」と述べている。本稿の資料では горячность "熱しやすい性格", глупость "愚かさ", совестливость "良心的なこと", наивность "無邪気さ", забывчивость "忘れっぽいこと", скромность "謙虚さ", скупость "ケチなこと" などの「人間の性質」を表す名詞がもっともよく使われていた。

12) Петр сделал это по своей природной доброте. (Иор.)

"ピョートルはその生まれつきの人の好きからそれを行った"

「心理的状态」, 「肉体的状态」, 「抽象物」を表す名詞もよく使われていた。作品の資料では, по пьянке "酔っぱらって" という結合が 6 回, по ошибке "間違っ" という結合が 5 回使われていた。

13) У Базильского в руках смычок и скрипка — по рассеянности. (Вам.)

"バジーリスキーは手に弓とヴァイオリンを持っている — ぼやっとしていたのだ"

14) Да. Раз мы заходили с ребятами. По пьянке. (Вам.)

"うん。一度だけ仲間と行ったよ。酔っぱらってね"

15) Дудорова по ошибке взяли в солдаты. (Док.)

"ドゥードロフは手違いで兵隊に取られた"

「感情」を表す名詞の例は1例だけだった。

16) ...короче говоря, женился я по страстной любви и клялся любить вечно, но... (Зол.)

"...簡単に言えば、私は熱烈な愛で結婚し、永遠に愛すると誓ったが..."

§5. 前置詞 от

前置詞 от が支配する名詞の意味に関しては、Астафьева (1974: 34) は、前置詞 от は「感情の名詞のみならず、動作、自然現象の名詞と、そして具体名詞とさえ結合する」と述べている。Попова (1958: 198) は、前置詞 от が支配する名詞を「感情、体験」、「肉体的状態」、「性質」、「動作」、「自然現象」、「物、物質」、「活動体の主体」というグループに分けて分析している。本稿の資料では、前置詞 от はすべての語のグループで使われていた。また、страх "恐怖", ужас "恐怖", горе "悲しみ", радость "喜び", удовольствие "満足感", счастье "幸福" などの「感情」を表す名詞、волнение "興奮", напряжение "緊張" などの「心理的状态」を表す名詞、боль "痛み", голод "飢え", усталость "疲労" などの「肉体的状態」を表す名詞がよく使われていた。

17) Я похолодел от страха. (Дов.)

"私は恐怖でぞっとした"

18) Парень от волнения по-детски шмыгает носом. (Рас.)

"若者は興奮のあまり子供みたいに鼻音をたてる"

19) Ванька зажмурился от боли... (Шук.)

"ワーニカは痛みで目を細めた..."

удар "打撃", смех "笑い" などの「動作」を表す名詞、холод "寒さ", жара "暑さ" などの「抽象物」を表す名詞もよく使われていた。

20) Один сразу свалился от удара бляхой по голове... (Шук.)

"一人は頭にバツクルの一撃を受けてすぐに倒れた..."

21) ...я жался от холода в моем дворике. (Мас.)

"...私は私の中庭で寒さに縮こまっていた"

以下の 22) は「人間の性質」を表す名詞, 23) は代名詞と「物」を表す名詞, 24) は「人間」を表す名詞の例である。「人間の性質」を表す名詞と「人間」を表す名詞の例は比較的少なかった。

22) Но зато и страдал же Иван Савельевич от своей вежливости! (Мас.)

"しかし、その代わりイワン・サヴェーリエヴィチはその丁寧さのために苦しんだのだ"

23) Не пей / не пей! Вот у тебя от этого живот и болит / от мыла! (Раз.)³⁾

"飲むな／飲むな！そのせいで君のお腹が痛んでいるじゃないか／石鹸のせいで！"

24) — Ведь от людей уж прохода нет!.. (Шук.)

"だって人のせいで通れないではないか!.."

§6. 前置詞 из-за

前置詞 из-за が支配する名詞の意味に関しては, Метс (1985: 256) は「前置詞 из-за を持つ構文の名詞は, そのせいで動作が行われなかったり, 望ましくない出来事が起こったりした人も, 物や現象も示しえる」, Иорданская и Мельчук (1996: 172) は「変項 Y に対して前置詞 ИЗ-ЗА1 はいかなる意味的制限も課さない: Y は状況の名詞 (умер из-за небрежности врачей "医者の不注意のせいで亡くなった") でも, 生き物/物の名詞 (умер из-за своего врача <из-за грязного скальпеля> "自分の医者のせいで <汚い外科用メスのせいで> 亡くなった") でもあり得る」と言っている⁴⁾。本稿の資料でも, 前置詞 из-за はすべての語のグループと使われていた。しかしながら「人間の性質」, 「感情」, 「心理的状态」, 「肉体的状态」, 「動作」を表す名詞の例は比較的少なかった。

- 25) Он, видимо, и сам был виноват в своих неудачах из-за трудного характера. (Рак.)
 "彼自身が, おそらく, 難しい性格のせいで自分の失敗に責任があったのだろう"
- 26) В кофейнях обсуждалось последнее самоубийство из-за неразделенной любви... (Дов.)
 "カフェでは最近起こった片思いのゆえの自殺が議論されていた"
- 27) ...сама-то опухоль вспыхнула у него из-за маминой слишком большой озабоченности и предусмотрительности... (Рак.)
 "...彼に腫瘍そのものが発生したのは, ママがあまりに気を遣い, 用心しすぎたせいだ..."
- 28) Илью из-за малого роста до армии звали Ильей-коротким... (Рак.)
 "イリヤは背が低かったので, 軍隊に入るまではちびのイリヤと呼ばれていた..."
- 29) А всё из-за перехода в пятый класс. (Рак.)
 "すべては5年生に進級したせいだ"
 「抽象物」を表す名詞はよく使われていた。
- 30) Бывало, что они всерьез ругались из-за политики, но сейчас старухе не хотелось ругаться... (Шук.)
 "彼らは政治のせいで真剣に罵り合ったことがよくあったが, 今は婆さんは罵り合いたくなかった..."
 сирень "ライラック", венки "花輪", ящик "箱", самолёт "飛行機", забор "塀", ружьё "銃"などの「物」を表す名詞や, женщина "女", курсант "軍学校の生徒", Санька "サーニカ", Майка "マイカ", Понтий Пилат "ポンティオ・ピラト"などの「人間」を表す名詞もよく使われていた。同様にすべての名詞のグループと使われている前置詞 от と比較して, 「物」, 「人間」を表す名詞の場合に前置詞 из-за の使われる割合が高かった。
- 31) Неужели посадить хочешь? Из-за ружья... (Шук.)

"まさか牢屋に入れたいのじゃないか?銃のせいで..."

32) Егорка не видел из-за Саньки лица женщины. (Шук.)

"エゴールカはサーニカのせいでその女の顔が見えなかった"

代名詞の例が多く、作品の資料では原因を表す前置詞 из-за が支配する語の中の約半数が代名詞であった。

33) Я с отцом поссорилась. Из-за вас. (Вам.)

"私、父と喧嘩したの。あなたのせいで"

§ 7. 前置詞 благодаря

前置詞 благодаря が支配する名詞の意味に関しては、Метс (1985: 258) は「この構文の名詞は、人も物も示すことができる」と書いている。本稿の資料では、前置詞 благодаря はすべての語のグループと使われていた。

以下、「人間の性質」、「感情」、「心理的状态」、「肉体的状态」、「抽象物」を表す名詞の例を挙げる⁵⁾。「感情」を表す名詞は любовь "愛" が2例使われているだけであった。

34) Степан Аркадьевич в школе учился хорошо, благодаря своим хорошим способностям. (Роз.)

"ステパン・アルカーディエヴィチは、そのすばらしい才能のおかげで、学校での成績がよかった"

35)...Боцарелли, изучавший самостоятельно русский язык благодаря любви к Достоевскому. (Все.)

"...ドストエフスキーへの愛のおかげで、独力でロシア語を勉強していたボツァレリ"

36) Благодаря Сerezинной настойчивости братьям удалось попасть в секцию горнолыжников. (Мет.)

"セリョー ज्याの根気強さのおかげで、兄弟たちはアルペンスキーの部会に入ることができた"

37) Благодаря свирепому своему виду он все же заставил одного из военных вступить с ним в переговоры. (Все.)

"その冷酷な顔つきのおかげで、彼はそれでもやはり軍人のうちの一人に彼との交渉に入らせた"

38) В английской газете 《Обсервер》 в 1926 году утверждалось, что благодаря этому вздорному суеверию люди смотрят сложа руки, как тонет человек. (Все.)

"イギリスの新聞『オブザーバー』において1926年に、この馬鹿げた迷信のせいで人々は人が溺れているのを何もしないで見ていると主張されていた"

§ 8. 前置詞が支配する語のグループ別の前置詞の使われる頻度

原因を表す前置詞が支配するそれぞれの語のグループごとの前置詞の使われる頻度を表にすると表1のようになる。表1において、◎は本稿の資料においてその前置詞が特によく使われていることを、○は普通に使われていることを、△はあまり使われていないことを、×は使われていないことを示す。表1から明らかなように、本稿で検討している原因を表す前置詞は大きく分けて、すべての語のグループとは使われていない前置詞 *из, с, по* とすべての語のグループと使われている前置詞 *от, из-за, благодаря* に分かれる。名詞のグループとの関係を見てみると、すべての語のグループとは使われていない前置詞は、前置詞 *с* の場合に、城田・八島(2014: 249)が「古めかしいか、俗語」と述べている具体名詞が使われている少数の例を除けば、抽象名詞とだけ使われていることが特徴的である。そのさい、前置詞 *из* は「人間の性質」、「感情」を表す名詞とよく使われるが、「肉体的状態」、「動作」を表す名詞とは使われない、前置詞 *с* は「感情」を表す名詞とはよく使われるが、「人間の性質」、「心理的状态」を表す名詞とは使われない、前置詞 *по* は「人間の性質」を表す名詞とはよく使われるが、「動作」を表す名詞とは使われないというように、前置詞はそれぞれの特徴を有している。すべての語のグループと使われる前置詞に関しては、前置詞 *от* は抽象名詞と使われる傾向があるのに対して、前置詞 *из-за* は具体名詞と使われる傾向があった。前置詞 *благодаря* の場合、本稿の資料では「感情」を表す名詞の例は2例しかなかった。

表1 前置詞が支配する語のグループ別の前置詞の使われる頻度

	из	с	по	от	из-за	благодаря
性質	◎	×	◎	○	○	○
感情	◎	◎	△	○	○	△
心理	○	×	○	○	○	○
肉体	×	○	○	○	○	○
動作	×	△	×	○	○	○
抽象	△	△	○	○	○	○
物	×	△	×	○	○	○
人間	×	×	×	○	○	○
代名詞	△	○	×	○	◎	○

2. 「外的原因と内的原因」の観点からの分析

§ 1. 外的原因と内的原因

本稿では、動作や状態の主体の外部から発する原因を外的原因、主体の内部から発する原因を内的原因とする。外的原因となるのは、人間、物、出来事、他人の心理的・肉体的状態などである。内的原因となるのは、主体の性質、感情、心理的状态、肉体的状態などである（Bee.2015:

27, 67; Schim.1971: 145; Зол.2001: 82)。

ところで、Всеволодова и Яценко (2015: 8) は動作の主体との関係で原因を表す同じ語が外的原因になったり、内的原因になったりする例を挙げている。

「内的原因と外的原因を我々は動作の主体 — 動作者 — との関係で区別する。たとえば、

Он промолчал из скромности "彼は謙虚さゆえに黙り通した"

という文において "скромность" は動作者に固有な特徴、すなわち、内的原因である。

Я люблю Петра за скромность "私は謙虚さゆえにピョートルが好きだ"

という文において "скромность" はピョートルの特性であり、動作者 (《я》) に対して外的要因である」と述べている。

この章では、本稿で検討している原因を表す前置詞が外的原因を表しているか、内的原因を表しているかという観点から分析する。外的原因であるか、内的原因であるかを決めるには文脈が必要であるので、ここでは作品の資料を中心に分析する。

§ 2. 前置詞 из

前置詞 из に関しては、Метс (1985: 258) は「常に内的な、問題の人の性格、状態の特徴にひそんでいる原因を示すさいに使われる」、Schimizzi (1971: 150) は「Из は内的原因だけを表すことができる」と述べている。作品の資料からの例を挙げる。

1) Он из вежливости не показал, что присутствие постороннего удивляет его или стесняет. (Док.)

"彼は部外者の存在が彼を驚かしたり、気まずい思いにさせたりしているという素ぶりを礼儀上見せなかった"

2) [Дудоров]...якобы из рассеянности...недоглядел, влюбился по недосмотру... (Док.)

"[ドゥードロフは]...放心していたかららしく ... よく見もしないで、不注意で惚れ込んでしまった ..."

3) Не из силы воли — из страха он держался и держался за работу... (Рак.)

"意志の力からではなく、恐怖心から彼はひたすら仕事にしがみついていた ..."

4) Старуха опять осталась одна, и исподволь, из ничего на нее нашла неслышная и легкая печаль... (Рас.)

"老婆は再び一人になった。すると少しずつ、何とはなしに彼女を聞こえない、軽い悲しみが襲った ..."

例 1) では вежливость "礼儀正しさ" は彼の性質、例 2) では рассеянность "放心状態" はドゥードロフの心理的状态、例 3) では страх "恐怖" は彼の感情を表しており内的原因である。作品の資料の例では、「人間の性質」、「感情」、「心理的状态」を表す名詞は上の例のようにすべて内的原因を表していた。また、例 3) では сила "力" は「抽象物」を表す名詞であるが、воля

"意志" という「心理的状态」を表す名詞が付くことによって内的原因を表している。作品の資料では「抽象物」を表す名詞はこの例だけである。例4) では **ничто** "何も (... ない)" は指示する対象がないので、外的原因であるか、内的原因であるか判断ができない。したがって、作品の資料では、例4) のような外的原因であるか、内的原因であるか判断できない例を除けば、前置詞 **из** は内的原因を表す場合に使われていた。

§3. 前置詞 **с**

前置詞 **с** が外的原因を表すか、内的原因を表すかについては、Иорданская и Мельчук (1996: 189) は「前置詞 **ИЗ** の場合と同様に、前置詞 **С** は **Y** が状況 **P** の内的原因である場合にのみ使われる」と述べている。Schimizzi (1971: 148) は「生格を伴う **s** は、意味の点で **от** と似ており、原因を表すためにより稀にしか使われないが、内的原因と外的原因両方を表すことができる」と述べ、外的原因の例として5) のような例を挙げている。

5) Ustat' **s dorogi**.

"To get tired **from the journey**." (Schim.149)

作品の資料では、「感情」、「肉体的状態」を表す名詞はすべて内的原因を表していた。

6) Я бы **со стыда** умер... (Рас.)

"私なら**恥**ずかしくて死んでしまうよ..."

7) А я всегда **с похмелья** плохо сплю. (Рас.)

"私はいつも**二日酔い**だとよく眠れない"

「動作」の例は1例だけであった。以下の例では、笑いは私の中から起こっているため、内的原因が現れていると言える。

8) Я умираю **со смеху**... (Вам.)

"私は**笑い**すぎて死にそうです..."

また、以下の例では **вино** "ワイン" は「物」を表しているが、**оне** "やつら" はワインを飲んで赤くなるのであり、ワインは"やつら"の中にあり、内的原因が表されている⁶⁾。

9) — Оне лучше **с вина**, старуня, сгорят, чем со стыда. (Рас.)

"やつらは、婆さんや、**恥**で顔が赤くなるより、**酒**で赤くなるんだ"

作品の資料では、前置詞 **с** が外的原因を表す例はなかったので、本稿の資料から外的原因の例を挙げる。

10) Белые **с морозу** Вдоль пути рядами Тянутся березы С голыми сучками. (Зол.)

"寒さのせいで白くなって、道に沿って並んで、裸の細枝をした白樺が続いている"

この例では、状況の主体は白樺であり、白樺が寒さで白くなっている。

以上のことから、前置詞 **с** が表す原因は、ほとんどが内的原因であり、外的原因を表している例は少数であると言える。

§ 4. 前置詞 по

前置詞 по が外的原因を表すか、内的原因を表すかに関しては、Метс (1985: 257) は前置詞 по は「内的原因 — 問題の人の性質、状態が話題になっているときに非常に制限された範囲の名詞と使われる」と述べており、一方 Schimizzi (1971: 151) は「原因の意味を持つ与格を伴う по は生産的で、内的原因と外的原因両方を表すことができる」と述べている。

作品の資料を検討してみると、「人間の性質、感情、状態」を表す名詞は多くが内的原因を表していた。

11) ...и тотчас же, по своей горячности, он осыпал себя проклятиями... (Мас.)

"... 持ち前の熱しやすい性格から, すぐに彼は自分に呪いの言葉を浴びせかけた..."

12) Вдруг по неосторожности Сашенька широко и сладко зевнул... (Док.)

"突然油断してサーシェニカは大きく心地よくあくびをした..."

11) の例では動作の主体 "彼" が熱しやすい性格であることが、12) の例では動作の主体 "サーシェニカ" が油断していたことが示され、共に内的原因が表されている。

しかしながら、「人間の性質、感情、状態」を表す名詞が外的原因を表している例も見られる。

13) では主体はニコライ・イワノヴィチであり、嫉妬深い細君の愚かさは主体の内部にはなく外的原因が表されている。

13) ...и в числе их — Николай Иванович, только что арестованный исключительно по глупости своей ревнивой супруги... (Мас.)

"... その中には、自分の嫉妬深い細君の愚かさのせいだけでたった今逮捕されたニコライ・イワノヴィチもいた..."

次に「抽象物」を表す名詞の例を見てみると、作品の資料ではすべての例で外的原因が表されていた。

14) Половину надписей по величине букв можно было прочесть с поезда. (Док.)

"看板の半分は、文字が大きかったので列車から読むことができた"

15) По случаю воскресенья семья Маркела Щапова была вся в сборе. (Док.)

"日曜日だったので [の機会のせいで] マルケル・シャーポフの家族全員が集まっていた"

したがって、作品の資料では、「人間の性質、感情、状態」を表す名詞は内的原因を表すことが多いのに対し、「抽象物」を表す名詞はすべて外的原因を表していた。全体で見れば、外的原因が 16 例、内的原因が 17 例使われており、両者はほぼ同じ割合で使われていた。

§ 5. 前置詞 от

前置詞 от が外的原因を表すか、内的原因を表すかに関しては、Сухотин (1960: 129) は「圧倒的多数の場合において、前置詞 от を伴う構文における名詞は、動詞によって示されている現象の内的原因としての状態を表している (похудеть от болезни "病気のせいで痩せる",

дрожать от волнения "興奮して震える" など)。その名詞部分が動作、自然現象、環境や動作を行う条件を示している結合 (уставать от работы "仕事で疲れる", колебаться от ветра "風で揺れる" など) はより使われない」と述べている。また, Schimizzi (1971: 147) は「Ot は、よりしばしば内的原因を表すが、内的原因と外的原因両方を表すことができる。内的原因を表す際には ot は制限がなく、感情、状態、性格の特徴などを示す名詞を含め非常に多様な名詞に先行する」と述べている。

「人間の性質、感情、状態」を表す名詞は、ほとんど内的原因を表していた。

16) Отец вспотел от горя. (Шук.)

"父は悲しみで汗がにじみ出た"

17) Ржаницкий был превосходный стрелок, но рука у него дрожала от волнения, и он промахнулся. (Док.)

"ルジャニツキーは名射手であったが、彼の手は動揺して震え、彼は撃ち損じた"

「人間の性質、感情、状態」を表す名詞が外的原因を表している例もあった。18) の例では、若者たちの愚かさは動作の主体のゾーヤの内部にはない。

18) И Зоя заплакала — не от тупости этих парней... (Рак.)

"そしてゾーヤが泣き出したのは、この若者たちの愚かさのせいではなかった"

「動作」を表す名詞の場合、19) の例のようにほとんどの例で外的原因が表されていた。内的原因が表されているのは、20) のような動作が主体の内部から起こるような例である。

19) На ее руках темнели шрамы от собачьих укусов. (Дов.)

"彼女の手には犬にかまれた傷跡が黒く見えていた"

20) ...и он давился от тихого смеха... (Мас.)

"...彼は忍び笑いにむせた"

「抽象物」を表す名詞はふつう外的原因を表している。

21) ...а порты и рубаха вылиняли и побелели от времени. (Док.)

"...またズボンとシャツは時間のせいですっかり色あせ、白くなっていた"

「抽象物」を表す名詞が内的原因を表す例はわずかであった。それらの例は、избыток "余剰", полнота "十分さ", отсутствие "欠如" という抽象名詞が「人間の性質、感情、状態」を表す名詞を伴っている例であった。以下の例では名詞 полнота が「心理的状态」を表す名詞 душа "胸の内" を伴っている。

22) ...само пространство от полноты души как бы снимало шапку... (Док.)

"...空間そのものが胸の内がいっぱいになってあたかも帽子を脱いだようだった..."

「物」を表す名詞もふつう外的原因を表していた。

23) Еще, помнится, выли собаки от этого патефона. (Мас.)

"この蓄音機のせいで犬が吠えていたのをさらに覚えている"

「物」を表す名詞の場合に内的原因が表されている例は、第3節で扱った前置詞 *с* の場合のように食べたり、飲んだりする物の例であった。以下の例では彼は薬を飲んだのであり、薬は彼の中にある。

24) Он засыпал, может быть от лекарства, и просыпался. (Рак.)

"彼は薬のせいだろうかとし、それから目覚めていった"

「人間」を表す名詞の場合はすべて外的原因が表されていた。

25) Произошли многие изменения в жизни тех, кто пострадал от Воланда и его присных... (Мас.)

"ヴォラントとその手先に苦しめられた者たちの人生に多くの変化が起こった..."

代名詞の場合は、ほとんどの例が26)の例のように外的原因を表していたが、代名詞が「人間の性質、感情、状態」を表す名詞を指す例では内的原因が現れていた。27)の例では、関係代名詞 *который* は「感情」を表す名詞 *злоба* "憎しみ" を指しており、内的原因が現れている。

26) Представляю, сколько она натерпелась от тебя... (Вам.)

"彼女があなたのせいでどれだけ苦しみをなめたか想像します..."

27) Та, лишь только увидела кота, лезущего в трамвай, со злобой, от которой даже тряслась, закричала... (Мас.)

"その女は電車にもぐり込もうとする猫を見るや、そのせいで身震いさえるほどの憎しみを込めて叫んだ..."

ところで、前置詞 *от* の場合、Сухотин (1960: 129) は「圧倒的多数の場合において、前置詞 *от* を伴う構文における名詞は、動詞によって示されている現象の内的原因としての状態を表している」、Schimizzi (1971: 147) は「*От* はよりしばしば内的原因を表す」と述べているが、外的原因であるか内的原因であるか判定できない例を除いて、作品の資料では外的原因の例が317例、内的原因の例が329例で、両者はほぼ同数であり、彼らの述べていることは実証されなかった。

§6. 前置詞 *из-за*

前置詞 *из-за* が外的原因を表すか、内的原因を表すかに関しては、Schimizzi (1971: 149) は「*Iz-za* は内的原因と外的原因両方を表すことができる」と、阿部 (1975: 58) は「*из-за* は外部的原因を表わすことが多いのであるが、ときには内部的な原因を意味することもある」と述べている。

「人間の性質、感情、状態」を表す名詞の場合、内的原因も外的原因も表されていた。29)の例では *все* "みんな" が動作の主体であり、クリソボイの身長は外的要因になっている。

28) ...он не был женат — но не из-за пороков... (Рак.)

"...彼は結婚してなかったが、それは肉体的欠陥のせいではなかった..."

29) Крысобоя вообще все провожали взглядами, где бы он ни появлялся, из-за его роста... (Мас.)

"そもそも、クリソボイがどこに現れようと、その身長のせいで、みんなが彼を目で追った..."
「動作」を表す名詞は少ないが、すべて外的原因を表していた。

30) ...но Дудоров не расслышал из-за закипевшего общего спора... (Док.)

"...しかしドゥードロフは、みんなの活気づいた議論せいで聞きとれなかった..."
「抽象物」, 「物」, 「人間」を表す名詞と代名詞はすべて外的原因を表していた。

31) — Маркиза, — бормотал Коровьев, — отравила отца, двух братьев и двух сестер из-за наследства! (Мас.)

"「あの侯爵夫人は」とコローヴィエフがつぶやいた。「遺産のことで父、二人の兄弟と二人の姉妹を毒殺したのです！」"

32) Витя, может, ты из-за венка расстроился, а? (Вам.)

"ヴィーチャ、ひょっとして、君は花輪のことで気落ちしているのか、え?"

33) Я все думал, что женщины наконец поссорятся из-за моего брата. (Дов.)

"私は女たちがついに私の従兄のことで喧嘩をするだろうとずっと思っていた"

34) Значит, ты отказал ему из-за меня?.. (Вам.)

"つまり、あなたは私のせいで彼を断ったわけ?.."

前置詞 из-за の場合、作品の資料ではほとんどの例で外的原因が現れており、内的原因の例はわずか7例だけであった。その理由は、作品の資料では、ふつう内的原因が現れる「人間の性質、感情、状態」を表す名詞が少なく、それらの例の半数が外的原因を表していたこと、また「人間の性質、感情、状態」を表す名詞以外の名詞と代名詞がすべて外的原因を表していたことにある。

§ 7. 前置詞 благодаря

前置詞 благодаря に関しては、阿部 (1975: 59) は「благодаря は内部的原因と外部的原因を意味するために同じ程度に用いられる」と述べている。

作品の資料では、「人間の性質、感情、状態」を表す名詞は少ないが、内的原因を表していた。

35) ...а благодаря вышивавшей из него живости и таланту гость занял собою, своим искрящимся взглядом и своей умною усмешкою полкомнаты. (Док.)

"... 彼からあふれ出る活気と才能のおかげで、お客は自分の存在によって、そのきらきら輝く眼差しとその知的な微笑によって部屋半分を占領した"

「人間の性質、感情、状態」を表す名詞以外の名詞の例では、36) の例を除いてすべて外的原因が現れていた。36) の例では、ピスタチオ色のカーテンなどは階下の中にあり内的原因が現れている。37) の例では「物」を表す名詞が、38) の例では「人間」を表す名詞が外的原因を

表していた。

36) Благодаря фиштакковым гардинам, зеркальным бликам на крышке рояля, аквариуму, оливковой мебели и комнатным растениям, похожим на водоросли, этот низ производил впечатление зеленого, сонно кольшущегося морского дна. (Док.)

" ピスタチオ色のカーテン, ピアノの蓋の鏡のような反射, 養魚水槽, オリーブ色の家具と水中植物に似た室内植物のために, この階下は眠たげに揺れる緑色の海の底の印象を与えた "

37) Благодаря новейшему оборудованию можно проводить все необходимые научные исследования, делать разнообразные опыты. (Пра.)

" 最新の設備のおかげで, すべての必要な学術調査を実施し, さまざまな実験をすることができる "

38) Собираемся, благодаря Анфиму, снабжающему нас керосином, вокруг лампы. (Док.)

" 私たちに灯油を補給してくれる アンフィームのおかげで, 私たちはランプの周りに集まる " 前置詞 благодаря の場合, 全体では外的原因の例の割合が高かった。

§ 8. それぞれの前置詞における外的原因と内的原因の現れ方

この章で検討してきたことから, 第1章で扱った語のグループと外的原因と内的原因の現れ方は関連していることが分かる。「人間の性質, 感情, 状態」を表す名詞の場合はふつう内的原因が現れる。「人間の性質, 感情, 状態」を表す名詞の場合に外的原因が現れるのは, 13), 18), 29) の例のように名詞が動作, 状態の主体以外の人の「人間の性質, 感情, 状態」を表している場合である。「動作」を表す名詞の場合, 20) のような少数の動作者の中から起こる動作の例を除き外的原因が表されていた。「抽象物」を表す名詞が内的原因を表す例はわずかであった。それらは 3), 22) の例のように избыток " 余剰 ", полнота " 十分さ ", отсутствие " 欠如 ", сила " 力 " という抽象名詞が「人間の性質, 感情, 状態」を表す名詞を伴っている例であった。「物」を表す名詞の場合, ほとんどの例で外的原因が表されていた。内的原因が表されている例は, 9), 24) の例のように食べたり, 飲んだりする物が主体の内部にある例である。「人間」を表す名詞の場合, すべての例で外的原因が表されていた。代名詞の場合, 27) の例のように代名詞が「人間の性質, 感情, 状態」を表す名詞を指す場合を除いて外的原因が表されていた。

「外的原因と内的原因」の観点から見れば, 本稿で扱っている前置詞は3つのグループに分かれる。

前置詞 из は外的原因を表すことがなく, 前置詞 с はほとんど表さない。前置詞 из の場合, 1例の判断不明の例を除いて, すべての例で内的原因が表されていた。その理由は「人間の性質, 感情, 状態」を表す名詞も, 「抽象物」を表す名詞の1例も内的原因を表していることにある。前置詞 с の場合, 「人間の性質, 感情, 状態」を表す名詞が多いが, それらはすべて内的原因を表していた。作品の資料ではその他の例でも外的原因を表している例はなかった。しかし,

本稿の資料には外的原因を表している例があるので、前置詞 с の場合は、少ないながら外的原因を表す例があると言える。

前置詞 по と前置詞 от は外的原因と内的原因をほぼ同じ割合で表していた。前置詞 по の場合、「人間の性質、感情、状態」を表す名詞の多くが内的原因を表していたが、外的原因を表している例もあった。「抽象物」を表す名詞はすべて外的原因を表していたので、全体としてみれば外的原因も内的原因も同程度使われていた。前置詞 от の場合、「人間の性質、感情、状態」を表す名詞の例と、それ以外の例がほぼ同じくらいあった。「人間の性質、感情、状態」を表す名詞のほとんどが内的原因を表すのに対し、「動作」、「抽象物」、「物」を表す名詞と代名詞はほとんどが外的原因を表し、「人間」を表す名詞はすべて外的原因を表していたので、全体としてみれば、外的原因と内的原因が同程度使われていた。

前置詞 из-за と前置詞 благодаря は内的原因を表すことが少なかった。前置詞 из-за の場合は、代名詞が半数を占め、「物」、「人間」を表す名詞も多く、それらはすべて外的原因を表わしていた。「人間の性質、感情、状態」を表す名詞は少なく、その半数が外的原因を表わしていた。したがって、全体で見れば、内的原因の例は少なく、外的原因の例が多かった。前置詞 благодаря の場合も、「人間の性質、感情、状態」を表す名詞は内的原因を表していたが、その例は少なく、「物」、「人間」を表す名詞と代名詞は1例を除いて外的原因を表わしていた。全体で見れば、内的原因の例が少なく、外的原因の例が多かった。

以上のことを表にまとめると以下ようになる。○はそれぞれの原因がふつうに現れることを、△はあまり現れないことを、×は現れないことを示している。

表 2. 原因を表す前置詞における外的原因、内的原因の現れ方

	из	с	по	от	из-за	благодаря
外的原因	×	△	○	○	○	○
内的原因	○	○	○	○	△	△

3. 「望ましさ」⁷⁾の観点からの分析

§ 1. 望ましい原因、中立的原因、望ましくない原因

原因の前置詞を特徴づける意味特徴のうちで、前置詞が望ましい結果を引き起こす原因（以後、望ましい原因と略すことにする）を表すかどうかという特徴が重要な位置を占めている。この章では、原因の前置詞の例を望ましい原因を表す場合、望ましくない結果を引き起こす原因（以後、望ましくない原因と略すことにする）を表す場合、望ましい結果も望ましくない結果も引き起こさない原因（以後、中立的原因と略すことにする）の場合に分けて、作品の資料を使って検討していくことにする。

§ 2. 前置詞 из

前置詞 из が望ましい原因を表すかどうかについては、本稿で検討している研究者の論文や著書では言及されていなかった。作品の資料を検討すると、1) のような望ましい原因、2) のような中立的な原因、3) のような望ましくない原因の例がふつうに使われていた。使われる割合としては、望ましい原因の例が比較的少なかった。

- 1) Он из вежливости не показал, что присутствие постороннего удивляет его или стесняет. (Док.)

"彼は部外者の存在が彼を驚かしたり、気まずい思いにさせたりしているという素ぶりを礼儀上見せなかった"

- 2) Как бы из верности прошлому, оно продолжало закатываться на прежнем месте... (Док.)

"あたかも過去への忠誠からのように、それ [太陽] はいつもと同じ場所に沈み続けた ..."

- 3) Шаманов. ...в Табарсуге тракторист избил жену.

Кашкина. ...Наверно, из ревности. (Вам.)

"シャマーノフ ... タバルスーク村ではトラクター運転手が妻を散々殴った。
カーシキナ ... きっと、やきもちからね"

§ 3. 前置詞 с

前置詞 с が望ましい原因を表すかどうかについて本稿で検討している研究者の論文や著書では言及されてないが、Агафонова (2000: 325) は前置詞 с に続く要素 Y について「たいてい、否定的に評価される状態のことが念頭にある」と書いている。

前置詞 с に支配される語がたいてい否定的に評価される状態を表していることから、作品の資料では、望ましくない原因の例が多かった。

- 4) Он как будто взбесился с горя. (Шук.)

"彼はまるで悲しみで狂乱状態になったようだった"

- 5) Андрей встал, пнул со зла табуретку. (Шук.)

"アンドレイは立ち上がって、腹立ちまぎれに腰掛を蹴飛ばした"

しかしながら、6) のような中立的な原因の例、7) のような望ましい原因の例も見られた。7) は主人公から一緒に亡命を勧められ断った従兄が言った言葉である。

- 6) Вдруг — с досады, что ли, со злости ли — Роман подумал: «А кого везут-то?... (Шук.)

"突然、悔しさからか、憎しみからか、ロマンは思った。『誰を運んでいるのだろうか? ...』"

- 7) Вот если бы с похмелья — раз, и ты на Капитолийском холме... (Дов.)

"もしも、これが二日酔いで、気がついたら (ローマの) カピトリナ丘にいたというならなあ ..."

§ 4. 前置詞 по

前置詞 по が望ましい原因を表すかどうかについては, Метс (1985: 257) は「前置詞 по は前置詞 из-за と同様に, 何かの不都合な原因を示すが, この意味は, из-за を伴う構文では生格の名詞の語彙的な意味に関係なく前置詞自体によってもたらされるが, 前置詞 по を伴う構文では名詞の語彙的意味と結びついている」と述べている。作品の資料について見てみると, 前置詞 по が支配する名詞には совестливость "良心", молодость "若さ", величина "大きさ", привычка "習慣" などの不都合な意味を表さない名詞があったが, 全体で見れば不都合な意味を表す名詞が多かった。

作品の資料では, 望ましくない原因の例が多かった。

8) ...и тотчас же, по своей горячности, он осыпал себя проклятиями... (Мас.)

"... 持ち前の熱しやすい性格から, すぐに彼は自分に呪いの言葉を浴びせかけた ..."

9) — Дважды ранен и освобожден вчистую по негодности. (Док.)

"(私は) 二度負傷して, 軍務不適格として完全に除隊になった"

しかしながら, 中立的原因の例や望ましい原因の例も見られた。

10) По причине обеденного времени или по случаю праздника в полях не попадалось ни души. (Док.)

" 昼食時のためか, 祝祭日のためか畑には人っ子一人見当たらなかった "

11) Половину надписей по величине букв можно было прочесть с поезда. (Док.)

" 看板の半分は, 文字が大きかったので列車から読むことができた "

10) の例では, ただ情景が描写されているだけで, 望ましいとか望ましくないとかという評価は表されていない。11) の例では, 列車から読むことができたという望ましい結果が表されている。

§ 5. 前置詞 от

前置詞 от が望ましい原因を表すかどうかについては, Метс (1985:258) は, 前置詞 от は「その発生が好都合な, あるいは不都合なという原因の評価に依存しない一定の状態あるいは性質の直接的, 非間接的原因だけを示すさいに可能である」と述べている。

作品の資料では, 12) のように望ましい原因の例, 13) のように中立的原因の例, 14) のように望ましくない原因の例が使われていた。使われる割合としては, 望ましい原因の例が少なく, 望ましくない原因の例が多かった。

12) Сюда падало предзакатное солнце, ещё было светло от него. (Рак.)

" こちらには夕日が差し込み, その [夕日の] せいでまだ明るかった "

13) — Ну, уж это положительно интересно, — трясаясь от хохота, проговорил профессор... (Мас.)

"「いや、これは本当に面白い」大笑いで身体を震わせながら教授は言った..."

14) Андрей же Фокич умер от рака печени в клинике Первого МГУ... (Мас.)

"アンドレイ・フォーキチのほうは肝臓がんのためにモスクワ大学付属第一病院で亡くなった..."

§ 6. 前置詞 из-за

前置詞 из-за が望ましい原因を表すかどうかについては、Метс (1985: 256) は「望ましくない動作を引き起こす不都合な原因は、前置詞 из-за を伴う生格の名詞の構文の助けをかりて表わされる」と述べている。

作品の資料では、前置詞 из-за はほとんどが望ましくない原因を表すために使われていた。

15) Он идет к верной гибели из-за этой глупой амбиции. (Док.)

"彼はこの愚かな自尊心のせいで確実な破滅に向かっている"

16) Я не хочу, чтобы папа из-за меня делал подлости! (Вам.)

"私は、パパが私のせいで卑劣なことをすることを望まない"

ところで、Иорданская и Мельчук (1996: 170) は、17) のような例を挙げ、「水の沸騰、それは、原則的に、人間の領域外で、まさにそのことによって、人間の評価なしで見ることができる客観的な物理的な事実である；それゆえ、ここでは ИЗ-ЗА1 は望ましくないことを含意しない」と述べている。

17) На большой высоте вода кипит при температуре ниже 100° из-за пониженного давления. (Иор.)

"非常に高いところでは、低い気圧のせいで、水は100度以下の気温で沸騰する"

作品の資料でも、中立的原因の例が見られた。

18) И первый уже цвет был — у алычи, цвет белый, но из-за листьев алыча казалась бело-зелёной. (Рак.)

"そして最初にすでに花を咲かせていたのではミロバランスモモだった。花は白いが葉のためにミロバランスモモは薄緑色に見えた"

以上のことから、前置詞 из-за に関しては、中立的原因の例が少数あるものの、ほとんどの例は望ましくない原因の例であると言える

§ 7. 前置詞 благодаря

前置詞 благодаря が望ましい原因を表すかどうかについては、Метс (1985: 258) は「望ましい動作を引き起こす都合な原因は、前置詞 благодаря を伴う与格の名詞の構文によって表される」と、Розенталь (2008: 308) は「望ましい結果を引き起こす原因が話題になっているときに、ふつう我々はこの前置詞を用いる」と述べている。

作品の資料では、望ましい原因の例が多かった。

- 19) ...Русанов, благодаря своему особому положению, обладал как бы набором дощечек ксилофона... (Рак.)

" ... ルサノフは自分の特殊な立場のおかげで, 木琴の薄板を集めたようなものを所有していた ..."

- 20) Каждый день Гордон куда-нибудь попадал, сопровождая Живаго, и благодаря ему что-нибудь видел. (Док.)

" 毎日ゴルドンは、ジバゴについてあちこちと行き、彼のおかげで何かと目にすることができた "

しかしながら、作品の資料では、21) と 22) のような中立的原因の例が見られた。

- 21) В дороге, благодаря неподвижному сидению в тесном купе, казалось, что идет только поезд, а время стоит и что все еще пока полдень. (Док.)

" 道中、狭い車室に動かずに座っているために, 汽車だけが動いていて、時間は止まっており、相変わらず真昼が続いているように思われた "

- 22) Единственный живой, влетевший в этот сон, именно и был Савва Потапович — артист, и ввязался он в это только потому, что врезался в память Никанору Ивановичу благодаря своим частым выступлениям по радио. (Мас.)

" この夢に舞い込んだ唯一の存在する人物はまさに俳優のサツヴァ・ポタポーヴィチで、彼がここに関与したのはラジオによく出演していたためにニカノール・イワーノヴィチの記憶に焼きついていたからである "

さらに、23) と 24) のような望ましくない原因の例も見られた。

- 23) Какое счастье! — думала Лара. Она не увидит Комаровского все то время, что они будут отрезаны от остального города! Она не может развязаться с ним благодаря матери. Она не может сказать: мама, не принимайте его. (Док.)

" 「何という幸せ! 」とラーラは思った。彼らが町の残りの地区と遮断されている間は、彼女はずっとコマロフスキーと合わなくて済むのだ! 彼女は母親のせいで彼と手を切ることができない。彼女は「ママ、彼を家に入れないで」とは言えない "

- 24) Но благодаря его выкрикам тревога передалась в 120-ю комнату, где больной проснулся и стал искать свою голову, и в 118-ю, где забеспокоился неизвестный мастер и в тоске заломил руки, глядя на луну, вспоминая горькую, последнюю в жизни осеннюю ночь... (Мас.)

" しかしながら、彼の叫び声のせいで, 不安が 120 号室に伝染し、病人が目を覚まし、自分の頭を探し始め、118 号室では、名もない巨匠が不安に駆られて月を眺め、つらい人生で最後の秋の夜を思い出しながら、愁いに沈んで手を揉みしだきだした ..."

ところで Розенталь (2008: 308) は, 21) と 22) のような例における前置詞 *благодаря* の使用を中立的意味における使用, 23) と 24) のような例における使用を否定的意味における使用と呼んで, 「テキストの分析が示しているように, 『望ましい』意味における前置詞 *благодаря* の使用例は, 中立的意味と否定的意味における使用例より少ない」と述べているが, 作品の資料では, 『望ましい』意味における前置詞 *благодаря* の使用例が多かった。

§ 8. まとめ

не из мести "復讐からではなく" のような前置詞の前に否定詞がついて望ましさの判断ができない例を除いて, 前置詞ごとに望ましい原因の例, 中立的原因の例, 望ましくない原因の例の頻度を調べると表 3 のようになる。

表 3 「望ましさ」の観点からの原因の前置詞の使用頻度

	望ましい原因		中立的な原因		望ましくない原因		計
	数	割合	数	割合	数	割合	
ИЗ	4	17%	10	42%	10	42%	24
С	1	2%	11	18%	50	81%	62
ПО	1	3%	8	25%	23	72%	32
ОТ	40	6%	216	34%	375	59%	631
ИЗ-ЗА	0	0%	3	2%	119	98%	122
БЛАГОДАРЯ	13	59%	7	32%	2	9%	22
計	59	7%	255	29%	579	65%	893

これまで検討してきたことから, 「望ましさ」の観点からは, 原因の前置詞は次の 3 つのグループに分かれる。

前置詞 *из-за*, 前置詞 *с* と前置詞 *по* は望ましくない原因の例の割合が非常に高くなっている。Метс (1985: 257) が, 不都合な原因の意味は「*из-за* を伴う構文においては生格の名詞の語彙的な意味に関係なく前置詞自体によってもたらされる」と指摘しているように, 前置詞 *из-за* は前置詞自体の意味によって望ましくない原因を表すので, 望ましくない原因を表す例の割合が 98% と非常に高くなっている。また, Агафонова や Метс が指摘しているように, 前置詞 *с* と前置詞 *по* は否定的な意味を表す名詞と結びつくことが多い。したがって, これらの前置詞の場合, 望ましくない原因の例の割合が高くなっている。

Розенталь (2008: 308) が「(動詞 *благодарить* "感謝する" との結びつきによる) その最初の語彙的な意味を前置詞 *благодаря* もまだ失っていない」と述べているように, 前置詞 *благодаря* の場合も, その語彙的な意味により望ましい原因の例が多くなっている。

前置詞 *из* と前置詞 *от* は, 上で述べたような制約はなく, 前置詞 *из-за*, *с*, *по* より自由に望ましい原因, 中立的な原因, 望ましくない原因を表し, これら 3 つの前置詞より, 望ましい原因

を表すことが多く、望ましくない原因を表すことが少なくなっている。

ところで、第1章で扱った語のグループの場合の望ましい原因、中立的原因、望ましくない原因の例の頻度を調べたが、すべて語のグループの場合に望ましくない原因の例が半数以上になっており、語のグループの違いによって、望ましい原因、中立的原因、望ましくない原因の例の頻度が特徴的に変わるという傾向が見られなかった。また、外的原因の例の場合も、内的原因の例の場合も、望ましくない原因の例の頻度が全体の場合と同様に約65%になることから、「外的原因と内的原因」の意味特徴が望ましい原因、中立的原因、望ましくない原因の例の頻度に特徴的な影響を与えないと考えられる。

4. おわりに

本稿では、ロシア語の6つの原因を表す前置詞 *из, с, по, от, из-за, благодаря* を3つの意味特徴を使って分析した。「前置詞が支配する語の意味」の観点からは、6つの前置詞は、すべての語のグループとは使われない前置詞 *из, с, по* とすべての語のグループと使われる前置詞 *от, из-за, благодаря* に分かれた。「外的要因と内的要因」の観点からは、6つの前置詞は、外的原因を表すことがない前置詞 *из* とほとんど表さない前置詞 *с*、外的原因と内的原因をほぼ同じ割合で表す前置詞 *по* と *от*、内的原因を表すことが少ない前置詞 *из-за* と *благодаря* という3つのグループに分かれた。「望ましさ」の観点からは、6つの前置詞は、望ましくない原因の例の割合が非常に高い前置詞 *с, по, из-за*、望ましい原因の例の割合が高い前置詞 *благодаря*、前置詞 *с, по, из-за* ほどは望ましくない原因の割合が高くなく、これら3つの前置詞より自由に望ましい原因、中立的原因、望ましくない原因を表す前置詞 *из* と *от* という3つのグループに分かれる。意味的特徴の相互の関係を見てみると、「人間の性質、感情、状態」を表す名詞の場合に内的原因が現れ、その他の語のグループの語の場合に外的原因が現れる傾向があり、「外的原因と内的原因」の意味特徴は、「前置詞が支配する語の意味」の意味特徴に依存している。「望ましさ」の意味特徴には、他の2つの意味特徴との依存関係はなかった。

従来のロシア語の原因を表す前置詞の研究は、前置詞ごとに前置詞に特有な特徴について分析しているため、たとえば、前置詞 *из* や *с* について「望ましさ」の観点からの分析が成されることはなかった。本稿のように、それぞれの意味特徴の観点から6つの前置詞をすべて分析することにより、原因を表す前置詞と意味特徴の間に関係がより組織的に捉えられることになる。たとえば、前置詞 *по* はすべての語のグループとは使われなく（抽象名詞としか使われない）、外的原因と内的原因をほぼ同じ割合で表し、望ましくない原因を表す例が非常に多いのに対し、前置詞 *благодаря* はすべての語のグループと使われ、内的原因を表すことが少なく、望ましい原因の例が多いというように、それぞれの前置詞が3つの意味特徴から組織的に特徴づけられることになる。

本稿では、ロシア語の原因を表す前置詞を特徴づけるのに関与的な3つの意味特徴を使って分析したが、「コントロールされること」など、さらにいくつかの意味特徴が提案されている。次稿では、提案された意味特徴の中から原因を表す前置詞を特徴づけるのに関与的な意味特徴を選び出し、それらの意味特徴を使って原因を表す前置詞を分析することにより、ロシア語の6つの原因を表す前置詞の特徴をさらに明確する予定である。

注

- 1) どのような例を、原因を表す前置詞の例と認めるかは研究者によって違う場合がよく見られる。本稿では以下のような例を、原因を表す前置詞の例と認めなかった。

前置詞 *с* の場合, *с вашего позволения* "あなたのお許しを得て" のような承認の意味を表す例, 前置詞 *из-за* の場合, *из-за денег* "お金のために" のように目的の意味を表す例, 前置詞 *по* の場合, *по Лариной просьбе* "ラーラの頼みで" のように依拠の意味を, *по внешности* "外見から判断すると" のように基準の意味を, *по делу* "用事で" のように目的の意味を表す例

- 2) 本稿では、以下の作品から原因の前置詞の例を集めた。

(Мас.) Булгаков, М.	1940	Мастер и Маргарита
(Док.) Пастернак, Б.	1955	Доктор Живаго
(Рак.) Солженицын, А.	1968	Раковый корпус
(Рас.) Распутин, В.	1967	Деньги для Марии
	1970	Последний срок
(Шук.) Шукшин, В.	1960-73	Рассказы
(Дов.) Довлатов, С.	1983	Наши
	1986	Чемодан
(Вам.) Вампиров, А	1966	Прощание в июне
	1968	Старший сын
	1970	Утиная охота
	1970	Провинциальные анекдоты
	1972	Прошлым летом в Чулимске

(Раз.) Земская Е.А., Капанадзе, Л.А. 1978 Русская разговорная речь. Тескты. Наука.

(Гов.) Хавронина, С.А. 1979 Говорите по-русски. (3-е изд.) Русский язык.

(Пра.) Богатова, Г.А. и др. 1977 Практика русской разговорной речи. Русский язык.

(Диа.) Шукин, А.Н. 1979 Русский язык в диалогах. (3-е изд.) Русский язык.

Мас. から Дов. は散文の小説, Вам. は戯曲である。Раз. はロシア人の会話を言語学的資料として書き取ったもので, Гов. から Диа. は外国人向けのロシア語会話の教科書である。Шукшин の作品に関しては、2003～04年にモスクワの ВАГРИУС 出版社から3巻本で出版された短編集から39作を選んで分析した。

なお、本稿の例に訳をつけるに当たって、以下の翻訳を参考にした。

法木綾子訳	ミハイル・ブルガーコフ「巨匠とマルガリータ」(上・下)	群像社
工藤正廣訳	ボリス・パステルナーク「ドクトル・ジヴァゴ」	未知谷
小笠原豊樹訳	ソルジェニーツィン「ガン病棟」(上・下)	新潮文庫
安岡治子訳	ラスプーチン「マリヤのための金」	群像社
染谷茂訳	シュクシーン短編集 I・II	群像社
ベトロフ=守屋愛訳	セルゲイ・ドヴラトフ「我が家の人びと」「かばん」	成文社

宮澤俊一, 五月女道子共訳 ヴァムピーロフ「去年の夏, チュリームスクで」 群像社

宮澤俊一, 五月女道子共訳 ヴァムピーロフ「長男」「鴨猟」 群像社

なお, 参考文献に挙げた論文, 著書からの例文を挙げるに当たって, 以下の略号を使用する(参考文献の順番に対応している): Абэ, Ага., Аст., Git., Гра., Иор., Мет., Поп., Роз., Schim., Сир., Сух., Все., Зол.

- 3) (Раз.) の斜線 (/) は, 発話が完了してない場合の発話のイントネーションの分割を示している。
- 4) Иорданская и Мельчук (1996) は原因を表す前置詞 *из-за* を, 原因を表す場合 (ИЗ-ЗА1) と目的を表す場合 (ИЗ-ЗА2) に分けて分析している。本稿では目的を表す場合を分析の対象にしていないので, Иорданская и Мельчук の ИЗ-ЗА1 は本稿の原因を表す前置詞 *из-за* に対応する。
ところで, Иорданская и Мельчук (1996: 163) は X, Y, P に関して「ここでは 'Y' は起動者 (= 原因) であり, 'P (X)' は結果 (= 引き起こされた状況) である。'Y' と 'P (X)' は述部 'каузировать' "引き起こす" の意味行為項である。'X' は述部 'P' の最初の意味行為項である」と述べている。
- 5) 「動作」, 「物」, 「人間」と代名詞の例には, それぞれ第3章の 22), 第2章の 37), 第3章の 23) と 20) の例が該当する。
- 6) 第1章第3節で述べたように, 本稿の資料では, 前置詞 *с* に支配される名詞が「物」を表す例が5例 (вино "ワイン", калач "錠前形の白パン", сыта "蜂蜜の甘露水", квас "クワス", одна рюмка "ワイングラス一杯") あったが, これらの名詞は食べ物, 飲み物を表している。それらが使われている文脈が分かる4例は, すべてその食べ物, 飲み物を食べたり, 飲んだりした例であり, 対象は主体の内部にあり, 内的原因が表されていると考えられる。第1章の 11) の例も参照のこと。
- 7) 「望ましさ」に関しては, 原因の前置詞によって引き起こされた状況の主体あるいは話者にとって望ましいかどうかによって判断する。この点に関しては, Иорданская и Мельчук (1996: 170 ~ 172) を参照のこと。

参考文献

- 阿部軍治 1975 ロシア語における原因を表わす前置詞 『教養論叢 慶応義塾大学法学部法学会』 40. 53-65
- Агафонова К. 2000 О конструкции «предлог с генитив». *Исследования по семантике предлогов: Сборник статей*. Москва. Русские словари. 313-337
- Астафьева Н.И. 1974 *Предлоги в русском языке и особенности их употребления*. Минск. Вышэйшая школа.
- Gitin V. 1987 The preposition of cause *iz*: its semantic and selectional properties. *New studies in Russian language and literature*. Columbus, Ohio. Slavica Publishers. 117-131
- Грамматика русского языка. Том II Синтаксис. Первая часть*. 1960 Москва. Изд. АН СССР.
- Иорданская Л.Н., Мельчук И.А. 1996 К семантике русских причинных предлогов (ИЗ-ЗА любви ОТ любви ИЗ любви С любви По любви). *Московский лингвистический журнал*. Т.2. Москва. 162-211.
- Метс Н.А. 1985 *Практическая грамматика русского языка: для зарубежных преподавателей-русистов*. Москва. Русский язык.
- Попова Л.Н. 1958 О значении предлога в современном русском языке (Предлог *от* + родительный падеж в значении причины). *Ученые записки ЛГУ №235 Серия филологических наук*, Вып.38. 190-208.
- Розенталь Д.А. 2008 *Справочник по русскому языку: практическая стилистика*. 2-е изд. Москва. ОНИКС Мир и Образование.
- Schimizzi J.A. 1971 *Synonymy among Russian primary prepositions*. Nashville. Vanderbilt University.

- 城田俊, 八島雅彦 2014 『現代ロシア語文法 中・上級編』 [改訂新版] 東洋書店
- Сухотин В.П. 1960 *Синтаксическая синонимика в современном русском литературном языке. Глагольные словосочетания*. Москва. Издательство Академии Наук СССР.
- Всеволодова М.В., Яценко Т.А. 2015 *Причинно-следственные отношения в современном русском языке*. Изд.стереотип. Москва. ЛИБРОКОМ.
- Золотова Г.А. 2001 *Синтаксический словарь. Репертуар элементарных единиц русского синтаксиса*. Изд.2-е. Москва. УРСС.

Prepositions of Cause in Russian I

(An Analysis Based on Semantic Properties)

Masahiro AOKI

Abstract

Existing research on prepositions of cause in Russian focuses on analyzing the specific characteristics of prepositions. This paper, however, uses three semantic properties to analyze the prepositions of cause: *из* (*iz*), *с* (*s*), *по* (*po*), *от* (*ot*), *из-за* (*iz-za*), *благодаря* (*blagodarja*). It will also systematically characterize these prepositions according to the semantic properties.

From the viewpoint of the semantic property of “the meaning of the words governed by the preposition”, the six prepositions were divided into 1) prepositions used with not all word groups (i.e., *из*, *с*, and *по*), and 2) prepositions used with all word groups, (i.e., *от*, *из-за*, and *благодаря*).

From the viewpoint of the semantic property of “external cause and internal cause”, the six prepositions were divided into the following three groups: 1) prepositions that do not express an external cause (i.e., *из*), or hardly express an external cause (i.e., *с*), 2) prepositions that express an external cause and an internal cause at roughly the same rate (i.e., *по* and *от*), and 3) prepositions that rarely express an internal cause (i.e., *из-за* and *благодаря*).

From the viewpoint of the semantic property of “desirability”, the six prepositions were divided into the following three groups: 1) prepositions that express the undesirable cause extremely frequently (i.e., *из-за*, *с*, and *по*), 2) the preposition that often expresses the desirable cause, (i.e., *благодаря*), and 3) prepositions that express the desirable cause, the neutral cause, and the undesirable cause relatively freely compared to the prepositions *из-за*, *с*, and *по* (i.e., *из* and *от*).

Keywords: cause, preposition, Russian, semantic property, desirability